

# カザン大(ロシア)と交流協定

トップニュース Top News



調印式に先立ちあいさつする本学・岡田学長  
=9月3日、国立カザン大学(ロシア)セレモニーホールで

9月3日に国立カザン大学で行われた調印式には、金沢大学からは岡田晃学長らが、国立カザン大学からは、ユーリ・コノブレフ学長をはじめ4名が出席し、両学長による協定書の署名が行われた。

国立カザン大学は、1804年に創立されたロシアでは3番目に古い大学であり、14学部のほか、大学院、研究所がある。学生数は、約7,500人、教職員数は約1,000人である。

今回は、平成5(1993)年1月に本学理学部との間で締結されたこれまでの部局間協定を大学間交流協定として発展させ、幅広い分野での全学的交流を行うために調印されたものである。



協定書に署名するユーリ・コノブレフ国立カザン大学長(左)と岡田学長。調印式の模様は地元テレビで放映された。  
=同上





巻頭言

夢膨らます  
新キャンパス



総合移転実施特別委員会委員長

辻 彰  
(薬学部教授)

2020年には現在より、大学入学定員は10万人減少するが、大学院の入学定員は10万人以上増大すると見込まれる。学生は学びたい大学と研究生を送りたい大学院に集中するので、魅力と活力ある教育研究環境づくりに遅れた大学・大学院は定員を充足できなくなる。

かつての金沢大学が魅力的な大学であった理由の一つは、金沢城をキャンパスとする教育研究環境のユニークさにあった。しかし金沢大学は総合大学としての健全な発展を図るために金沢城を離れる決意をし、新キャンパスを角間地区に求めた。造成工事開始から11年後の1995年に総合移転第一期事業を完了した。本年4月に起工式を終え、第二期事業に向けた第1調整池、角間川改修工事が順調に進んでいる。金沢城に優る魅力と教育研究の活性化が図れるキャンパス環境を構築しなければならない。

これまでに多くの議論を重ね、学部積み上

げの従来型の大学院から脱却して学部、学科、専攻の枠を越えて自由な教育と研究を行えるよう、教官は自然科学研究科棟に居住して学部教育に出向くという、大学院重点大学として機能する期キャンパス構想をつくり上げた。期北・南キャンパスとの有機的な連携・交流を図り、それぞれ独立して存在する学部と大学院における教育の連携、大学院5年一貫教育研究、他分野との連携・交流、総合性・学際性に富む大学院教育やプロジェクト研究などの複合研究の遂行を可能とし、かつ地域社会との連携・交流を図った総合移転完了後の角間キャンパス環境は、21世紀に向けた新しい大学の模範になる。

昨年11月より村田前委員長に代わって大役を引き受けることになったが、再開発がスタートした宝町キャンパスと角間キャンパスが一体となった魅力と活力ある金沢大学になるよう努力したい。

「世紀末に生きる 歴史と文化と法」をテーマに  
法学公開講座始まる



加藤喜代志教授による第1回の講座  
= 9月19日、法学部講義室

今年で13回目となる「金沢大学法学公開講座」の開講式が、9月19日、法学部で行われた。

開講式では、鴨野幸雄法学部長と大学教育開放センターの浅野秀重助教授があいさつし、続いて第1回の講座「21世紀を迎えるにあたって思うこと ヨーロッパ文明から地球文明へ」が幕を開けた。今回は「世紀末に生きる 歴史と文化と法」を統一テーマとした全7回のコースを50人が受講する。





## 着々と国際交流進む

**大学間** オーストラリア国立大学と



協定書を交換するオーストラリア国立大学のディヴッド・グリーン副学長(左)と本学の金子教育学部長  
= 8月24日、オーストラリア国立大学で

**部局間** 韓国湖西大学校工科大学と

このたび、本学はオーストラリア国立大学との大学間交流協定を結んだ。南半球に位置する機関との大学間交流締結は、これが初めてである。本学は、平成8年にシドニーで開催された「日本留学フェア」に参加したことを機に、これまで同校と協議を重ねてきており、今回その成果が実った。同校は、1946年に創立された同国唯一の国立大学である。

また、工学部は韓国湖西大学校工科大学との間で交流協定を締結した。これにより、工学部における協定大学は3校となった。



調印を祝う関係者(左から李 秘書長、崔工科大学長、本学の林工学部長、金岡工学部教授)  
= 8月24日、韓国湖西大学校工科大学学長室で

## アメリカ大学協議会来学 短期留学プログラムについて懇談

9月24日、米国大学協会のジョセフ・ジョンストン日米交流プログラム副会長とジェイン・スポールディング同担当部長が、10月から本学で始まる短期留学プログラム視察に訪れ、国際交流委員会留学生専門委員会短期留学プログラム小委員会委員及び留学生センター短期留学プログラム担当教官と意見交換を行った。留学生の募集方法や単位の取扱いなどについて活発な質疑応答がなされ、本プログラムをより具体化する上で有意義な意見が交された。



概要を説明する“短プロ”担当教官  
= 9月24日、事務局特別会議室で

担当教官の説明に熱心に耳を傾ける米国大学協会のジョセフ・ジョンストン日米交流プログラム副会長(左)とジェイン・スポールディング同担当部長  
= 同上



## 外国人3名を含む30名が新博士に 「平成10年度自然科学研究科学学位記授与式」を行う

「平成10年度自然科学研究科学学位記授与式」が9月30日に行われ、課程修了者15名と論文審査合格者15名の合わせて30名（うち外国人3名、最年長は62歳）に岡田晃学長から学位記が手渡された。新しい博士たちは、岡田学長の告辞と花岡美代次研究科長の祝辞により心を新たにした様子であった。



告辞を述べる岡田晃学長  
= 9月30日、事務局大会議室で



学位記を受け取る安達實さん  
= 同左

## より高度な技を求めて企業技術者が奮闘 リカレント教育プログラム始まる

平成10年度リカレント教育プログラムの開講式が9月4日、工学部で行われた。このうち「三次元CAD-CAE 設計と有限要素シミュレーション」の講座は昨年度に続いて開講した。11月6日まで県内外の企業技術者18名が受講する。

また、もう一つは新講座「土木建造物の最新の設計及び維持管理技術」で建設省、石川県、企業などから43名が参加し、10月16日まで開講される。



三次元CADの実習風景  
= 9月18日、工学部機械工学系A棟CAD室で

## 学生寮で「食と健康教室」開かれる

9月25日に泉学寮、28日には白梅寮で、金沢市保健所の栄養士を招いて「毎日の食生活で防ぐ生活習慣病」をテーマとした「食と健康教室」が開かれた。

教室では、若い時からの食生活の大切さが話され、具体的な料理のデモンストレーションが行われた。寮生たちは、自身の食生活や健康状態をチェックしながら、今後の調理に役立てようと、簡単で栄養のバランスのとれた料理を学んだ。



食べ物と生活習慣病とのかかわりについて話す金沢市保健所の管理栄養士  
= 9月28日、白梅寮で





9月の全国・ブロック会議

本学が当番で開催した全国又は地方ブロックの会議

平成10年度 日本教育大学協会  
研究集会

9月26日、教育学部を会場として「平成10年度日本教育大学協会研究集会」が開かれた。同研究集会には、本学を含めた全国の教員養成大学・学部等から約200人が参加し、「転機にたつ教育実践・教育研究」を主題に、様々な研究報告と全体による活発な討論がなされた。



活発に意見交換が行われた全体討議の様子  
= 9月26日、教育学部で

「外国人学生のための進学説明会」に本学初参加!



たくさんの学生が訪れ、熱気に満ちた説明会会場  
= 9月5日、ワールドインポートマート(東京池袋)で

9月5日、東京池袋ワールドインポートマートで、平成10年度「外国人学生のための進学説明会」(主催(財)日本国際教育協会)が開催され、計2,523人の外国人学生が会場を訪れた。

同説明会は、国内の日本語教育機関等で大学や大学院への進学を目指す外国人学生が、希望に見合った大学等を選択できるように毎年開かれているもので、今年度は国内の大学・短期大学等186校が参加して、個々の教育機関の特色をPRした。

今回が初めての参加となる金沢大学のブースには、中国を中心とした約50人の学生が訪れ、参加した本学教職員は私費外国人留学生の選抜方法や教育内容等について熱心に説明し、首都圏志向の学生が多い中でPRに努めた。



## 火消しも任せて 消火技術競技大会で附属病院チーム活躍!

金沢市の「平成10年消火技術競技大会」が9月3日、まめた簡易グラウンド(大豆田本町)で行われ、医学部附属病院から3チームが出場した。近年の相対的な技術向上の中、「屋内消火栓の部」で看護婦Aチームが見事3位に入賞した。また、同部に出場した看護婦Bチームと「可搬動力ポンプの部」に出場した事務部チームは、ともに敢闘賞を獲得して互いの健闘をたたえた。



勢いよく放水する事務部チーム  
= 9月3日、まめた簡易グラウンドで

## 総合教育棟でも 消防訓練

総合教育棟でも9月7日、消防訓練が行われ、約50人の職員が参加した。職員は専門家から消防の心構えや消火器具の使用方法を聞いた後、屋内消火栓や消火器を使って、おっかなびっくり消火を試みた。参加者はこの訓練を通して消防に対する意識を新たにしました。



消火器を使っでの消火訓練の様  
= 9月7日、総合教育棟で



## 金沢大学50年の歩み 50年史編纂室収集資料から (その4) 旧・城内校舎整備の第一陣 —— 昭和30年代後半 ——

### 法文学部校舎の完成

#### 三八豪雪を乗り越えて

旧・城内キャンパスにおける校舎の改築は、昭和32年戸田学長(初代)が描いた構想に端を発している。それは、広坂通りの旧・四高校舎を利用していた理学部を城内へ移転して整備充実させるとともに、併せて城内の各部局建物の整備も行うというものである。

昭和37年度から法文学部校舎の改築と理学部校舎の新築に着手し、引き続き、教育学部、一般教養部、図書館、本部などの建物が順次着工されていった。



木造の旧・法文学部校舎(左から2号館, 1号館, 3号館)



“三八豪雪”に見舞われた工事現場(旧・法文学部玄関から)



完成した法文学部校舎(グラウンド側から)





# 放射線を知ろう!

11月に「キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念講演会」を開催

本学の放射性同位元素委員会は、11月8日(日)、金沢市文化ホール(高岡町)で「キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念講演会」を開催する。これは、児童・生徒や一般の方々にキュリー夫妻の功績と放射線の科学を知ってもらうために行うもので、プログラムは下のとおり。当日は、ビデオ上映や放射線測定の実演も予定されている。

講演 13:00~15:00)	
司会 利波 紀久(医学部教授)	
森 厚文(アイソトープ総合センター教授)	
1)「ラジウム発見の科学と進歩」	
	中西 孝(理学部教授)
2)「アイソトープと生命科学」	
	中西 義信(薬学部教授)
3)「アイソトープによる診断と治療の最前線」	
	道岸 隆敏(医学部助教授)
4)「がんの放射線治療の最前線」	
	菊池 雄三(医学部教授)
5)「アイソトープ・放射線の工学利用 最近の話題」	
	稲部 勝幸(工学部教授)
展示 13:30~17:00 実験・実演 15:00~17:00)	
解説 天野 良平(医学部教授), 小村 和久(理学部教授),	
佐藤 保(医学部教授)	



講演会ポスター

# 金大祭の日程決まる

「第35回金大祭」は、10月30日(金)から11月3日(火)まで行われることが、このほど全学学生生活委員会で決定された。テーマは、「時代を拓く矢を放て!」である。学生たちは、いま、各サークル単位で演奏の練習や作品の仕上げに余念がない。

## 編集後記

朝夕随分と涼しくなってきた。

さて、10月は国際交流協定の締結をはじめ、短期留学プログラムや外国人学生進学説明会など、国際的な話題が多かった。日本の大学の一つとして、世界と手を結び、自らも伸びていけるなら、こんなにすばらしいことはない。次に気付いたことは公開講座やリカレント教育プログラムのことである。本学は、地域の大学の一つとして市民の学習を応援し、また、地元企業の技術者のレベルアップにも貢献していると思う。

今年の金大祭では、メイン企画として、芥川賞作家でルポルタージュ『もの食う人びと』の著者でもある辺見庸<sup>よ</sup>氏を迎えての文化講演会「世界の虚偽とひとり旅の可能性について」(11月1日(日)13時から総合教育棟B4教室で)を開催する予定となっている。

先日、ある協議会で某ビール会社の元広報部長のお話を伺った。今、この業界では、単に良い製品を造るだけでは生きていられない時代だそうだ。資源を100%再利用するなど、「社会との共生」が根本理念にあるという。そして、社員全員が広報マインドを持って行動していると。大学が学ぶべき大きなものに触れた気がした。

金沢大学は、社会に対して何ができるのか。常に頭に入れておきたいことである。(池端)



# 角間キャンパスに虹かかる



9月16日の午後3時、角間キャンパスに鮮やかな虹がかかった。15日から台風5号の影響で不安定な空模様だったが、この日の午後は雨雲の合間から時々太陽が顔を出しており、虹は広範囲で見えたようだ。しかし撮影者には、この虹が金沢大学の明るい未来を表しているに違いないと思われた。

## THE DORAKU ④

油 絵

### 無趣味者の趣味

現職当時から全く無趣味な私には、離職後毎日の過ごし方が課題であったが、心の片隅には油絵を一度描いてみたい気持ちがあった。長男との話の中で趣味として何をするかが話題となり、このことを話した。そうしたら、後日、油絵の用具一式を退職祝いとして整えてくれた。

早速手始めに近くの浅野川から卯辰山近辺の風景を描いていたところ、通り合わせた某新聞記者の目にとまり、これが新聞の片隅にカラー写真付きの記事となってしまった。この頃から文化センターへ通い始め、楽しさも増してきた。今の生活では、唯一没頭できるものであり、永く続けたい。

市村秀夫

(元 企画調査課長)



平成10年10月16日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019  
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称 “ KUPIS ” (キュービーズ) 」  
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。  
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール (E-mail) = [general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。

